

2016-2017年度 MAN II ジョジョグジャカルタの
二年の学習者に対する語彙の能力を高めるための
LINE スタンプフラッシュカードの教材の効果

ユヌス・バガス・プトラント

20130830040

要旨

日本語には他の言語と同じ、非常に多くの言語能力がある。それは、読む能力、書く能力、話す能力と聞く能力である。日本語学習者には語彙力が必ず必要だと考えられる。なぜなら、語彙を多く知っているのなら、読む能力・書く能力・話す能力を少しずつ高めると思われる。語彙力を高めるために、効果的な教材が必要である。そのため、本研究では LINE スタンプフラッシュカードが語彙力を高めるために使用された。なぜなら、LINE は若者にとって最もよく使われているソーシャルメディアである。本研究は MAN II ジョジョグジャカルタの二年の学習者におけることにした。データ収集はテストとアンケートを使用した。テストは語彙力を高めるための LINE スタンプフラッシュカードの教材の効果についてが分かるためである。アンケートは MAN II ジョジョグジャカルタの二年の学習者にとって LINE スタンプフラッシュカードの教材がどのような意味を持つかを知るために使用した。テストの分析の結果によると、 t 得点は 5.29 であり、db の 35 による、 t 表 (5%) は 2.03 である。さらに t 表に比べ、 t 得点のほうが高いと分かった。また、”Normalized Gain”の結果で実験クラスのスコアは 0.93 であり、コントロールクラスのスコアは 0.76 である。つまり、実験クラスとコントロールクラスは効果的であるが、コントロールクラスの結果に比べ、実験クラスの結果のほうがけっこう高いである。アンケートの結果では実験クラスの学習者全員が LINE スタンプフラッシュカードの使用するのはよかったとのべた。

キーワード：語彙、LINE スタンプ、プフラッシュカード、教材、効果

I. はじめに

他の言語と同じであるが、日本語には非常に多くの言語能力がある。それは、読む能力・書く能力・話す能力と聞く能力である。日本語学習者のため主に、語彙力は、マスターしなければならない。なぜなら、語彙を多く知っているなら・読む能力・書く能力・話す能力、少しずつ高めると思われる。語彙力を高めるため、効果的な教材を必要だと考えられる。そのため、研究者には LINE スタンプフラッシュカードが語彙力を高めるために使用された。なぜなら、LINE は若者にとって最もよく使用されているソーシャルメディアである。前の研究本研究の対象は MAN II ジョジョグジャカルタの二年 IBB 組の学習者である。目的は LINE スタンプフラッシュカードの教材で MAN II ジョジョグジャカルタの二年 IBB 組の学習者の語彙能力を高める効果を分かるためである。2013年の Suhaimi と Nadziroh の研究にとって、フラッシュカードはアラビアの語彙力を高めるは効果的である。そのため、フラッシュカードの教材は語彙力を高める仮定がある。

A. 本研究の問題設定：

1. Line スタンプフラッシュカードの教材は MAN II の学習者の語彙力をたかめるの効果があるのか。
2. MAN II の学習者は Line スタンプフラッシュカードの教材を使用したについて、どのような反応があるのか。

B. 本研究の目的

1. Line スタンプフラッシュカードの教材は MAN II の学習者の語彙力をたかめるの効果を知る。

2. MAN II の学習者は Line スタンプフラッシュカードの教材を使用したについて、どのような反応を知る。

II. 本論

A. データおよび研究の方法

1. 研究方法

本研究の方法は準験的な研究である。テストのデザインは *Pretest-Posttest Control Design* である。本研究には二つクラスを分け、実験クラスとコントロールクラスである。実験クラスは IBB クラスであり、コントロールクラスは MIPA クラスである。実験クラスに Line スタンプフラッシュカードという教材を行った。

2. データ収集

a. テスト

Pretest は最初の学習者の語彙力を分かるために行い、それから *posttest* はテストは LINE スタンプフラッシュカードの教材の効果を知るためである。実験クラスの *pretest* は 2017 年 3 月 30 日に行った。コントロールクラスの *pretest* は 2017 年 3 月 29 日に行った。実験クラスの *posttest* は 2017 年 4 月 17 日に行った。コントロールクラスの *posttest* は 2017 年 4 月 7 日に行った。

b. アンケート

Posttest を使用した後、アンケートの分析は割合の計算式を使用した。

3. データ収集方法

データの収集は LINE スタンプフラッシュカードでの授業をした後に、語彙力についてテストを使用した。また、実験クラスの学習者にその教材を使い反応のデータを取るため、アンケートを使用した。

4. データの分析方法

LINE スタンプフラッシュカードの効果を分かるため、テストの結果は t テストと *Normalized Gain* 式で処理された。

a. t 得点を計算する(Sutedi, 2009:230)

$$t = \frac{Mx - My}{SEM_{x-y}}$$

b. *Normalized Gain* を計算する(Hake, 1999)

$$(g) = \frac{T_2 - T_1}{S_{max} - S_{min}}$$

c. アンケートの結果を計算する(Meisa, 2010:38) :

$$P = \frac{F}{N} \times 100\%$$

B. 分析の結果と考察

1. テストのデータ分析

a. t テストの差異は、次の表になる。

番	X	Y	x	y	x^2	y^2
1	10	8	0.3	-0.8	0.09	0.64
2	9.5	8.5	-0.2	-0.3	0.04	0.09
3	9	8	-0.7	-0.8	0.49	0.64
4	9.5	8.5	-0.2	-0.3	0.04	0.09
5	10	10	0.3	1.2	0.09	1.44
6	9.5	9	-0.2	0.2	0.04	0.04
7	10	9.5	0.3	0.7	0.09	0.49
8	9.5	9.5	-0.2	0.7	0.04	0.49
9	9.5	9.5	-0.2	0.7	0.04	0.49
10	10	8.5	0.3	-0.3	0.09	0.09
11	9.5	8	-0.2	-0.8	0.04	0.64
12	10	9.5	0.3	0.7	0.09	0.49
13	9.5	10	-0.2	1.2	0.04	1.44
14	10	8	0.3	-0.8	0.09	0.64
15	10	9.5	0.3	0.7	0.09	0.49
16	9.5	8	-0.2	-0.8	0.04	0.64
17	10	9	0.3	0.2	0.09	0.04
18	10	8	0.3	-0.8	0.09	0.64
Σ	175	159	0.4	0.6	1.62	9.52
M	9.7	8.8				

実験クラスの平均点は 9.7 であり、コントロールクラスの平均点は 8.8 である。実験クラスの標準偏差は 0.07 であり、コントロールクラスの標準偏差は 0.16 である。実験クラスとコントロールクラスの *standard*

error mean XY は 0.17 である。次に、t テストの差異を探す。

$$t = \frac{mx - my}{SEMx - y}$$

$$t = \frac{9.7 - 8.8}{0.17}$$

$$t = \frac{0.9}{0.17}$$

$$t = 5.29$$

t テストを使い、t 点は 5.29 であった。t テストの結果は t テーブルが 2.03(有意水準は 5%)。t 点と t テーブルに比べ、t 点ほうが高いので、実験クラスとコントロールクラスに有意な差あった。

b. *Normalized Gain*

Line スタンプフラッシュカードの教材の効果を知る。

実験クラス					コントロールクラス				
番	コード	t1	t2	(g)	番	コード	t1	t2	(g)
1	A	2	10	1	1	S	3	8	0.7
2	B	3.5	9.5	0.9	2	T	4.5	8.5	0.7
3	C	5.5	9	0.8	3	U	3	8	0.7
4	D	6	9.5	0.9	4	V	5	8.5	0.7
5	E	5	10	1	5	W	6	10	1
6	F	7	9.5	0.8	6	X	7	9	0.7
7	G	6.5	10	1	7	Y	6	9.5	0.9
8	H	6	9.5	0.9	8	Z	6.5	9.5	0.85
9	I	7	9.5	0.8	9	AA	6	9.5	0.9
10	J	6	10	1	10	BB	5	8.5	0.7
11	K	5	9.5	0.9	11	CC	2.5	8	0.73

12	L	6.5	10	1	12	DD	4	9.5	0.9
13	M	5.5	9.5	0.9	13	EE	6.5	10	1
14	N	5.5	10	1	14	FF	7	8	0.33
15	O	2.5	10	1	15	GG	4	9.5	0.9
16	P	5.5	9.5	0.9	16	HH	3.5	8	0.7
17	Q	2	10	1	17	II	5	9	0.8
18	R	6	10	1	18	JJ	5.5	8	0.5
$\sum(g)X$			16.8		$\sum(g)Y$			13.71	
M(g)X			0.93		M(g)Y			0.76	

表によると、*Normalized Gain* の実験クラスの平均点は 0.93 であり、*Normalized Gain* のコントロールクラスの平均点は 0.76 である。実験クラスの平均点とコントロールクラスの平均点にくらべ、実験クラスの平均点ほうがたかいである。つまり、実験クラスで Line スタンプフラッシュカードの教材を使用したのは非常に効果である。

2. アンケートのデータ分析

回答者の回答は以下ようになる

番	質問	はい	いいえ
1	Line スタンプのことをしているか。	100%	0%
2	Line スタンプフラッシュカードの教材を使用したのは楽しかったか。	100%	0%
3	Line スタンプフラッシュカードの教材は語彙力を高めるか。	100%	0%
4	語彙の量は多すぎるか。	33%	67%
5	Line スタンプフラッシュカードの教材は	100%	0%

	授業で語彙を学ぶために適しているか。		
--	--------------------	--	--

III. 結び

A. 結論

1. Line スタンプフラッシュカードの教材は MAN II の学習者の語彙力をたかめるは効果であり、実験クラスとコントロールクラスに有意な差あった。
2. アンケートによって、Line スタンプフラッシュカードの教材を使用されたのは学習者はいい反応を受け取った。

B. 提案

1. 教師のため
学生の基本語彙力をたかめるため、Line スタンプフラッシュカードの教材を使用されると提案する。
2. 学習者のため
基本語彙力を高めるため、Line スタンプフラッシュカードの教材をは学校の外に使用されると提案する。
3. 今後の研究
本研究に、Line スタンプフラッシュカードの教材は *drill* という教育の技術で使用した。また、他の技術を使用できるのかを研究したいという今後の課題がある。

IV. 参考文献

Arsyad, Azhar. 1997. *Media Pembelajaran*. Jakarta: Raja Grafindo Persada.

Hake, Richard. 1999. *American Educational Research*

- Association's Division D, Measurement and Research Methodology*. Tersedia: <http://www.physics.indiana.edu/~sdi/AnalyzingChange-Gain.pdf> [3 Mei 2017].
- Meisa, Wistri. 2010. *Pembelajaran Kata Kerja Bentuk "Te" dengan Metode Teknik Rima (Studi Eksperimen Terhadap Japanese Club SMAN 12 Bandung)*. Skripsi pada FPBS UPI: Tidak Diterbitkan.
- Nadziroh, Aschurotun. 2010. *The Use of Flashcards to Improve Vocabulary Mastery (A Classroom Action Research for the Fourth Year Students of MI Duren Bandungan in the Academy 2009/2010)*. Skripsi pada FP STAIN Salatiga: Tidak diterbitkan.
- Sudjianto dan Dahidi Ahmad. 2004. *Pengantar Linguistik Bahasa Jepang*. Jakarta: Kesaint Blanc.
- Sugiyono. 2009. *Metode Penelitian Kuantitatif dan Kualitatif*. Bandung: Alfabeta.
- Suhaimi, Neneng. 2014. *The Effectiveness of Using Flash Card in Teaching Vocabulary (A Quasi Experimental Study in the Seventh Grade of MTs N 13 Jakarta)*. Skripsi pada Fakultas Tarbiyah dan Pelatihan Guru Universitas Syarif Hidayatullah: Tidak diterbitkan.
- Sunarti dan Selly. 2014. *Penilaian dalam Kurikulum 2013*. Yogyakarta: CV Andi Offset.
- Sutedi, Dedi. 2005. *Pengantar Penelitian Pendidikan Bahasa Jepang*. Bandung: FPBS UPI.
- Sutedi, Dedi. 2009. *Penelitian Pendidikan Bahasa Jepang*. Bandung: Humaniora.